

SIIA「テレワークセミナー総括会議」報告

本年度、SIIA では、3部会合同会議において、人材開拓推進部会宇賀田副部長からの提案により、「地域のテレワークはSIIA がリードする」を採択し、人材育成教育研修部会により2回シリーズで、また人材開拓推進部会が1回の計3回のオンラインによるセミナーを開催することができました。

また、コロナ感染症拡大の影響を受け、SIIA においても殆どの会議、セミナーなどの会合をオンラインで開催することになり、その運用方法も含め、常に試行錯誤しながらノウハウとスキルを高めてきています。

2019年度には人材育成教育研修部会において、テレワークセミナーを開催した当時とは、私達の働く環境が激変し、拙速も厭わずテレワークに雪崩を打った企業や各機関なども多くあり、このような環境下で3回のテレワークをテーマとしたセミナーは SIIA として画期的な事業であったと思われます。

今、3回シリーズのテレワークセミナーが完了した時点で、「テレワーク総括会議」をオンラインで開催しました。

会議では、この事業を振り返り、評価と反省点を明らかにし、今後「with コロナ」か「after コロナ」ではなく、引き続き重点課題となると思われるテレワークについて総括し、次年度以降の SIIA 事業として、どのような取り組みをすべきかを関係者の皆さんに議論頂き、今後の課題あるいはテーマを見出しました。

2021年1月15日

< 概 要 >

- ・開催日時:2021年1月14日(木)13:00~14:30
- ・会議形式:「フォーラム・ディスカッション」形式(Webexによるオンライン会議)
- ・モデレーター:宇賀田栄次(講師/副部長)
- ・キーメンバー:小豆川裕子(講師)、米良直樹(部長)、渡辺篤(部長)、花澤真平(副部長)、渡部竜也(セミナー担当)
- ・参加者:久保田光二(副理事長)、渡邊治彦(理事)、白崎俊哉(理事)、鈴木猛(人材育成研修部会)

テーマ

- ① 評価および反省
- ② 課題
- ③ 次年度に向けた取り組み

*事前にキーメンバーには「KPTシート」を記入してもらい、その内容をもとに、2度の「ブレイクアウトラウンド」で討議を行い、2セッションの代表者から報告とモデレーターによりまとめがあった。

成果のまとめ

レポートとして残し、次年度事業への反映を求める

<会議録>

1. 「テレワークセミナー総括会議」進行

- ・冒頭桜井運営委員長／事務局長挨拶
- ・会議ゴールの共有「KTPを参考に次年度への申し送りを決定する」
- ・事前配付資料の内容(事実)確認 (15分)
- ・ブレイクアウトセッション
 - 1 ラウンド目(2セッション) (20分)
 - セミナーの実施そのもの(協会として)／
 - 各セミナーについて(企画側／参加者側):多角的な視点からの意見
 - 2 ラウンド目(部会を中心に) (20分)
 - セミナーの実施そのもの／各セミナーについて:まとめ
- ・各部長より発表(10分×2名)

2. 会議

(1) 事前配布資料による内容(事実)確認

「テレワークセミナー総括会議事前配布資料」の確認 (宇賀田モデレーター)

(2) ブレイクアウトセッション

ブレイクアウト1ラウンド目

※セッション1

久保田光二

花澤真平

渡辺 篤

※セッション2

渡邊治彦

米良直樹

小豆川裕子

※2セッション3

白崎俊哉

鈴木 猛

渡部竜也

宇縣栄次

ブレイクアウト2ラウンド目

※セッション1

渡邊治彦

白崎俊哉

米良直樹

花澤真平

渡部竜也

鈴木 猛

小豆川裕子

※セッション2

久保田光二

渡辺 篤

宇賀田栄次

(3) 各セミナー報告

① 米良部会長

- ・来年度以降への申し送り事項として、実施できればベター & ベストと思う。
- ・実態やニーズの把握をして行こうという意見が出た。
- ・今年度は「先ずやってみよう」と仮説を立ててスタートしたが、来年度以降本当に皆さんに役立つものにして行くかということを考えると、各企業が持っている課題や取り組みを踏まえてセミナーの組み立てをして行くことが必要になる。
- ・毎年の活動で、総会終了以降から始めるとなると、どんどん後ろ倒しになってしまうので、総会を待たずしてニーズ把握を進めるのが良いと思う。
- ・誰がどのようにやっていくかということに関わってくるので、一部会ということだけでなく協会としてやって頂き、三部会で情報共有できるようにするのが良いと思う。
- ・テレワークのテーマも、実態把握とも関連すると思うが、今回は三部会でそれぞれテーマを出していったが、SIIA として地域のテレワークを引っ張っていくというところで、どういった方向性で引っ張っていくか SIIA として明確にして、そこから各部会がどのような形で進めて行くのかということも 2 年目には進めて行ければ良いと思う。
- ・コロナ収束しない中で、コロナ収束後を見越して、「コロナ対策としてではなく、働き方改革のテーマで、これからの時代の変化に対応したテレワークと言うことを踏まえて、いろいろ考えて行かなければならない」という意見もあったので、そういう目線をもって企画できれば良いと思う。
- ・ウェビナーなどの一つの形にこだわらずに、いろいろな方法についても各部会を通じて考えることにより、各会員企業の役に立つものにして行きたい。

- ・SIIA がベンダーのみならずユーザー企業も入会しているので、会員企業にとっても役立つ企画も活動に反映しながら進めて行く必要があると思う。
- ・ユーザー企業に役立つということは、ひいてはベンダー企業にとっても Win-Win で却ってくることになると思うので、そういうことも含めて考えていく必要があると思う。

② 渡辺部会長

- ・今回の人材開拓推進部会のセミナーは企業向けの中に一部学生さんにも参加いただいたが、次回は学生向け専用のセミナーもどうかと思っている。
- ・参加企業(受講者)が毎回固定化しているので、告知方法をいろいろな形で考える必要がある。
- ・部会メンバーの企業の参加が多く、それ以外の一般会員の参加を如何にして得ていくかということを中心に繋げる方法として考えてはどうかと思う。
- ・理事会としても取り組んでいるようだが、SIIA 全体として、こんごどのように取り組んで行くかということを検討中であることを久保田副理事長から伺った。
- ・次年度に関しては、人材開拓推進部会の立場として、「学生さんにとって IT が壁になっている」ということなので、今回のテレワークのテーマで学生さんに出して行くことを考えたい。
- ・首都圏にはコロナの問題もあり、コロナが収束しても働き方についても、いろいろなツールを使って働く方法やツールを使って首都圏に代わって静岡で働けるということになる。
- ・IT 業界と他業界がコラボすることでより一層静岡で働けるということを PR する方法をこれから模索する。
- ・コロナ禍にあって、首都圏から地方に移りたいが、やはり東京の仕事はしたいといったニーズなどを踏まえ、今後学生或いは中途等 IT 業界に入りたい人材に対し、来年に向けて SIIA としても考えてみたらどうかという意見があった。

(4) まとめ（宇賀田モデレーター）

- ・オンラインツールを使ったセミナーは継続していく方向が出された。
- ・その中で、特に今年は「仮説」として取り組んだところを、より具体的に会員企業の課題解決に繋がるところからやっ行ってこうということになったようだ。
- ・米良部会長の報告によれば、先ずはベンダーでの解決がユーザーにとっての解決方法になっていくと流れが「地域のテレワークを SIIA がリードする」という方向に繋がっていくという展開になると受け取った。
- ・また、学生がどのように IT 業界への就職という障壁を突破していくかということも、具体的なテーマに落とし込んだセミナーをやって行くべきという意見だった。